

高き志【にころぎし】

今日、4月14日は「かみましき『命と防災』の日」でした。それを受けて本校では、今年も地震避難訓練を行いました。学校だよりも熊本地震に関係するものと思い、5年前の4月25日、勤務していた高森町立高森東小学校で、学校再開の前日にホームページ上に掲載した学校だよりを、原文のまま掲載させていただきます。

前に歩み出します

今年度のひめゆり(学校便り名)第3号をこのような状況で発行することになるとは思ってありませんでした。

4月14日夜と16日未明の大きな揺れを中心に続いております熊本地震により、亡くなられた方や行方不明となっている方がおられ、住居を失った多くの方々が不自由な避難生活を余儀なくされていることに、大きな衝撃を受け、深い悲しみを感じております。亡くなられた方々の御冥福を心からお祈り申し上げます。

保護者の皆様方の多くも、子どもたちとともに、少なくとも数日間は避難生活をされたのではないかと心配しております。担任を通じて状況の聞き取りをさせていただきましたが、すべてのご家庭とも、子どもたちやご家族の方々には怪我はなく、ご自宅にも大きな被害はなかったと報告を受けております。胸をなでおろし、少しは安心しているところです。

南阿蘇に暮らす者にとって、茶色の山肌が見え、しかもその下に当然あるべき「阿蘇大橋」が無い立野の姿は、まさに「衝撃」であり、「信じられない」としか思えない状況です。通勤途中に、益城も西原も通りました。目を疑うばかりの状況です。熊本県民全体にとって大変厳しい試練です。

しかし、私は、今回のこの経験から様々なことを感じ、思い、学ぶことができました。これは、きっとどなたも同じような思いだと思います。

「家族の大切さとその存在の心強さ」「地域の中での協力や助け合いの大切さ」「何でもない一日一日の幸せ」「長年の友の温かさ」「水・火・明かりがあることへのありがたみと感謝」「自分のことは後回しにして人のために頑張る方の存在」「秩序ある行動ができる人々の多さ」「避難所で率先してボランティアに取り組む若者(中学生、高校生)の多さと素晴らしさ」「全国から手を差し伸べてくれる方々の多さとありがたさ」

これら多くの素晴らしく大切なことです。

突きつけられた現実から逃げることはできません。今後の教育活動も予定どおりに進めることは難しいでしょう。しかし、いつまでもショックを受け、悲しんでばかりはいられません。現実には厳しいけれど、そこから感じ、思い、学べたことはどれも素晴らしく大切なことばかりです。

実は、私の自宅も大きなダメージを受け、家に入れず車での寝泊りが必要でした。心配してくれた大学時代の友人たちに、私は昨日、次のようなメッセージを送りました。

(略)昨日、私の自宅はライフラインが回復しました。私個人の先行きはどうか見えてきました。(略)益城も西原も南阿蘇も目を疑うばかりの風景です。しかも、その風景が見慣れた風景であり、自分が過ごしていた場所であることのショックは自分が思っていた以上のものでした。私たちは、自力で前へ進めるようになった者から順番に自力で歩みだすことが、避難所生活を送っている方々の助けになるし、犠牲になられた方々の思いをつなぐことになると考えます。たくさんの方々からの励ましの言葉、涙が出るほど嬉しかったです。いや、涙が出ました。本当にありがたう！私たち家族は前に歩み出します。

明日から、子どもたちが登校してきます。学校には、子ども達の元気な姿が戻り、笑い声が響くことでしょう。高森東小学校、高森東学園も前に歩み出します。